Central Weekly Market Report No.

NO. 1012

セントラル短資株式会社 総合企画部

今週(10月5日から10月9日)の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、資金調達ニーズの強さが顕著であった。無担保コールO/N物は、マクロ加算残高に余裕がある邦銀と証券業態の調達を中心に、日々取り上がる展開が続いた。無担保コールO/N加重平均レートは、週初5日に ▲0.019%から始まり、週後半には▲0.01%を上回るなど、実質的な上限に近い水準となった。ターム物に関しては、O/N物と同様にレートが上昇しており、ショートターム物で▲0.01%近辺での出合いが散見された。日銀当座預金残高は、概ね470兆円台後半での推移となった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、足元の短国の需給が悪いこともあり、概ね▲0.080~▲0.060%程度の水準で推移した。 SC個別銘柄では、5年140~145、10年350~360、20年170~173、30年60~68、40年9~13などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、週前半は、オペのオファー額が少額にとどまる中、週後半に入札を控えていることもあって閑散な地合いとなった。週後半は、8日に行われた6M物の入札が弱い結果となったことで、需給の悪化が強く意識され、軟調な推移となった。

6日に実施された短国買入オペは、前回と同額の10,000億円でオファーされた。需給の悪さを反映し、平均落札利回較差+0.015%、按分落札利回較差+0.015%と、弱い結果となった。

8日に実施された6M物の入札は、WI取引において \blacktriangle 0.130~ \blacktriangle 0.120%での出合いが見られたものの、平均落札利回 \blacktriangle 0.1202%、按分落札利回 \blacktriangle 0.1122%と、弱い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、 \blacktriangle 0.120~ \blacktriangle 0.115%の出合いが見られた。

9日に実施された3M物の入札は、短国の需給悪化が強く意識される中、WI取引において▲0.105~▲0.097%での出合いが見られ、平均落札利回▲0.0945%、按分落札利回▲0.0875%と、弱い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.090%出合いと、入札と同水準で推移した。

● CP市場

CP市場は、償還総額4,500億円程度に対して、発行総額5,000億円程度と若干の発行超となった。期初にあたるため、商社・鉄鋼・小売等が大型発行を実施し、発行総額を底上げした。一方で、先行きの不透明感が強かった春頃にまとまったロットで発行を行っていた事業法人については、CPでの調達を継続しないケースが散見された。発行残高は23兆円台央での推移となっており、期初としては過去最高水準で推移している。発行レートに関しては、銘柄間で較差はあるものの概ね0%からマイナス圏での決着が中心となっている。特に希少銘柄については、CP等買入オペや新型コロナオペに対する需要から、積極的な購入姿勢が引き続き見られている。

●短期金融市場関連指標

	日経平均(円)	新発10年物 国債利回り(%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/5 (月)	23,312.14	0.020	105.58	△ 0.019	△ 0.070	4,754,400
10/6 (火)	23,433.73	0.030	105.65	△ 0.014	△ 0.078	4,771,800
10/7 (水)	23,422.82	0.035	105.65	△ 0.010	△ 0.076	4,774,600
10/8 (木)	23,647.07	0.034	106.00	△ 0.008	△ 0.080	4,783,800
10/9 (金)	23,619.69	0.029	105.96	△ 0.008	△ 0.068	4,757,500

来週(10月12日から10月16日)の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/12 (月)	8月の機械受注統計(内閣府 8:50) 9月の企業物価指数(日銀 8:50)				米国祝日(Columbus Day)
10/13 (火)	9月のマネーストック(日銀 8:50)	流動性供給 5,000億円 10/14発行			9月の米財政収支 9月の米消費者物価指数
10/14 (水)					9月の米生産者物価指数
10/15 (木)	8月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30) 8月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	流動性供給 5,000億円 10/16発行	交付税借入 11,000億円 10/23借入		
10/16 (金)		TB3M 75,500億円 10/19発行			9月の米小売売上高 8月の米企業在庫 9月の米鉱工業生産・設備稼働率 10月のミシガン大消費者信頼感指数速報 9月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

臭亚而和 1/芯										
単位:	意円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/12	2 (月)	800	▲ 14,900	▲ 14,100	国債買入		10,000	11,400	▲ 2,700	TB3M発行▲75500償還73200
					CP買入	▲ 200				TB6M発行▲38000償還28500
					ETF買入		1,400			
					国債補完	200				
10/13	3 (火)	0	2,000	2,000				0	2,000	
10/14	4 (水)	0	▲ 5,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	源泉税揚げ
										社会保障
										流動性供給発行▲5000
10/15	5 (木)	0	72,000	72,000	CP買入		6,000	6,000	78,000	年金定時払い
										個人向け3Y・5Y・10Y発行▲3700
										償還500
10/16	5 (金)	▲ 1,000	▲ 5,000	▲ 6,000	被災地支援	▲ 100		▲ 100	▲ 6,100	流動性供給発行▲5000
										交付税借入▲10000期日11000
週間台	計	▲ 200	49,100	48,900	_	▲ 100	17,400	17,300	66,200	

^{10/12}は日銀予想、10/13以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み最終週となる。引き続き資金調達ニーズが強い状態が継続し、レートは高い水準での取引が続くと見込まれる。新しい積み期に入る16日は、レートが多少低下すると予想する。レポ市場は、短国の発行が増加していることもあり、引き続きGC T/Nは▲0.080~▲0.06%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、16日に3M物の入札が実施予定となっている。短国の需給悪化が懸念される中、レート水準を含め、市場動向が注目される。また、13日に予定されている短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、春頃に発行された案件の償還が控えており、事業法人の発行動向が注目される。また、13日にはCP等買入オペが予定されており、水準が注目される。主要なイベントは、特段無い。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長(登金)第526号 日本証券業協会加入